

令和元・2年度事業



パキスタン北東部における緑の再生・保全事業と環境保護第一世代の育成事業

パキスタン・ギルギットバルティスターン州スカルドゥ県



事業概要

目的は、近年の急激な人口増と観光地化による緑の減少・表土の喪失を食い止め、耕作地・草地・植林エリアから天然林に至る緑の再生と保全、そのための重要課題である環境保護第一世代の育成である。主な活動は以下のとおり。① 村民・子どもたちとの緑化エリアでの協働植栽、②新緑化エリアの食害・盗伐防止のためのフェンス設置整備、③スカルドゥ市内の学校、特別支援学校への苗木の寄贈と協働植栽など。

事業成果

継続しての事業であることが村との信頼関係を強くする大きな要素となった。苗木や新緑化エリアのフェンスの運搬・設置等も村が率先してやってくれた。村や学校での協

働植栽においても、冬ごもり前のちょっとしたイベントのように、皆が楽しく参加してくれた。

事業をよく知る関係者の声

- ・貨幣経済・消費経済の浸透により環境破壊が危惧される中、スタクチャン村が生物多様性の保全・保護のモデル村となり、州全域で緑化の推進・自然林の保全保護への関心が高まることを期待する。

参加者の声

- ・学校には大きな木がないので、大きくなったら日陰ができて涼しくなる。(小学生女子)
- ・隣村に用材や燃料となる木々がないのを目にしているので保全に力を入れたい。(30代男性)



ポプラ、アンズを植樹



防護柵を設置



学校での植樹



学校での植樹に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.5ha
植付本数：3650本
フェンス整備：430m

参加者数

パキスタン：158人
計：158人

樹種

ポプラ、アンズ

森の次代を担う青年森づくり事業

東京都青梅市



事業概要

目的は「森の次代を担う青年たちの森づくり」である。主な活動は、授業を通じた東京都の森林環境の現状を知ってもらい、森林活動への参加を積極的に促した。必要なサポートとして、次代を担う青年たちを育てるために、世代を超えての取り組みを目指して全世代が地域のフィールドで取り組んだ。

事業成果

森林整備に興味をもつ生徒が増え、地域のバックアップにつながった。うっそうとしていた森林が明るくなり、防犯面からも地域住民の皆さんとの交流にもつながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・授業以外の日での活動に参加希望する声もあり、学校のクラブ活動に発展させることや、定期的な活動として自治会の皆さんとの調整や連携も必要。スタッフからも、作業に興味をもつ生徒がいるという声があり、将来の職業としての候補にもなることから、今後の活動につなげた。

参加者の声

- ・作業した場所が明るくなった。(生徒)
- ・生徒が生き生きとしている。校舎内では見ることが少ない表情だった。(教員)
- ・前年度と違う植物なども見られ、継続することの意義も伝えられるようになった。(指導員)



指導員の事前打合せ



生徒による森林整備体験



安全に留意しながら作業



森林が明るくなった

実績とりまとめ

作業内容
指導員講習：4回

参加者数
都内：51人
都外：12人
計：63人

水源を守ろう、森づくり事業

群馬県川場村、東京都渋谷区



事業概要

目的は、森林整備と国土保全の関連に関する知識の普及啓発と、未立木地に苗木を植えることにより水源地の森林として水源かん養林を保全すること。主な活動は、①学習会、②広葉樹の植樹、③下刈など。

事業成果

①学習会を通じ、森林の役割と整備の必要性を学習した。②未立木地に苗木を植えた。現地はニホンジカが多く生息しているため獣害防止柵を設置した。③植樹から1年後に下刈を実施。東京からも多くの参加者があり、地元の会員

から植樹時の様子を聞きながら成長した苗木まわりの下刈をした。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した下刈が必要になる。
- ・実生から発芽したスギを除伐する必要があるだろう。(森林組合員)

参加者の声

- ・日本の森林の資源や林業について思いを深くすることができた。(50代女性)
- ・青空の下での下刈は最高だった。(60代女性)



ヤマザクラ、コナラ、シバグリを植樹



下刈



獣害防止柵を設置



学習会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：90本
 下刈面積：0.1ha
 除伐面積：0.1ha

参加者数

県内：13人
 県外：86人
 計：99人

樹種

ヤマザクラ、コナラ、シバグリ

森・子どもたちの元気づくり・再生プロジェクト

北海道札幌市、岩見沢市、赤井川村、苫小牧市、江別市、当別町



事業概要

第44回全国育樹祭の開催を契機に、植樹活動や森や木と触れ合う体験の機会を提供して森づくり活動への参加を促し、森づくりの役割や地球温暖化への貢献などについて周知を図った。主な活動は次のとおり。①森林での森づくり活動や園庭等での記念植樹、②森や木の理解を深める森の学びの場の提供等。ただし、コロナ感染症拡大の影響から、森とのふれあいの場の中止、森づくり活動の延期等、感染症対策を強化して事業を実施した。

事業成果

参加者は地球温暖化防止や持続可能な社会づくりへの関心が高まり、自然への探求心も芽生えてきた。ただし、コロナ感染症拡大防止の観点から、事業の中止や延期した事業もあり、参加者数は減少した。

事業をよく知る関係者の声

- ・幼少期から森づくりに参加し森と直接ふれあうことで、自然への興味や関心を抱くようになり、地球環境問題についても考える機会となった。(園長)
- ・森づくりの重要性・役割をより広く発信できるよう、安全・安心に配慮しつつ、これからも事業に取り組んでいきたい。(事業実施者)

参加者の声

- ・わかりやすい解説と指導を受け、事業参加を契機に家庭内での環境問題の会話が増え、自然への関心の高まりを感じさせた。(園児の保護者)
- ・活動を契機に自ずと協力し合い、探求心や積極性も培われた。森づくり活動継続への意欲も高まった。(担任)



苗木づくり



トドマツ、エゾヤマザクラほかを植樹



アカエゾマツの枝打ち体験



自然観察

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.09ha
 植付本数：215本
 下刈面積：0.01ha
 森の学び：3回
 苗木づくり：4回

参加者数

道内：235人
 計：235人

樹種

トドマツ、エゾヤマザクラ、ツツジ、クリ、ミズナラほか

馬と歩く瞑想と森林浴の森づくりプロジェクト

岩手県遠野市



事業概要

手入れをしていない広葉樹林を森林浴などに適した心地よい森林空間にして、馬と人の通う森をつくること。主な活動は以下のとおり。①植林されたカラマツを伐採して利用、②展望地の視界を遮る樹木の剪定、③外来種や繁殖力の強い草本を選択的に刈り取り在来希少種を保全、④枯死していた樹木など危険木の除去、⑤里山在来種の実生苗を採取して育成など。

事業成果

カラマツを伐採したことで4月には林床にカタクリを確認できた。陽がさすようになり、クロモジがよく育成していたので、樹皮や枝でお茶を煮出して参加者と味わった。繁茂するススキを選択的に刈り取ったことでシロスゲ、ウコギ、ホトトギス、ヤブレガサなど眼にも嬉しい在来の草本を多く確認することができた。伐採枝でバイオネスト*を組み、林内を整理しながら道沿いの法面土壌を保護すること

ができた。また、カラマツの伐倒や集材などを体験し、林業の作業に初めて触れるスタッフにとっても学び多き初年度の事業となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・限界集落のこの森を次世代につなぐには、滞在型で深い体験をして帰って行く人を増やしたい。若い人の参加が増えると良い。(NPO事務局)
- ・美しく有用な里山景観をつくっていくには継続的な関わり方を維持できるかどうかが肝心だ。(財団法人評議員)

参加者の声

- ・しっかり暮らしの作業を満喫できた。(50代男性)
- ・美しいランドスケープはもちろん、創造的に生きることが体験できる素晴らしい場だと感じた。(30代女性)
- ・作業や馬との対話を通して、自分の中では循環・対話・感謝・バランスと問い続ける力がキーワードとなった。(40代女性)



バイオネスト組み



再造林のための実生苗採取



馬と歩く「瞑想の森林浴」



倒木整理

*バイオネスト/樹木を剪定したときに出た枝などを、その土地の上に円形に編みながら積み上げること。

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.6ha
除伐面積：0.6ha
実生苗採取：2回
道の法面保護：50m

参加者数

県内：50人
県外：84人
計：134人

「かがやけ白崎の森」プロジェクト

和歌山県由良町



事業概要

自然に触れる機会が少なくなっている中で、より多くの人たちに自然の役割や自然の力を学んでもらい、直接ふれながら活動体験する拠点の整備。その整備作業を安全かつ効率よく行うための森林ボランティアやジュニアリーダーの技術習得、教育のため。主な活動は以下のとおり。①植樹地及び林道等環境整備作業、②森林ボランティア及びジュニアリーダーの技術習得、育成、③間伐材を使った木工体験、④環境学習など。

事業成果

専門家の指導により、自分たちだけでは難しい作業や講習も効率よく行うことができた。間伐材をコースガイドや

階段として活用、ハイキングコースを安全に歩けるようになった。知識や体験は1人1人の成長につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林組合の方がいたので、初めて行う作業にも安心感があった。参加した子どもたちは職業に触れ、成長するきっかけになった。(リーダー研修会担当者)

参加者の声

- ・作業前は不安だったが、いっしょに作業していくなかで楽しくなった。
- ・思っていた通りにはなかなかできなかったが、普段触れることの少ない自然での作業は楽しかった。
- ・山の斜面は歩きづらかった。



間伐材を使ってハイキングコースの階段設置



ハイキングコース周辺の倒木撤去



防護ネットの設置



クロガネモチ、ヤマモモほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：30本
 下刈面積：0.13ha
 除伐面積：0.13ha
 ハイキングコース整備：2回
 森林教室：2回
 木工体験：2回

参加者数

県内：50人
 計：50人

樹種

クロガネモチ、ヤマモモ、シラカシ

中国・内モンゴル自治区アラシャン盟ウランブハ沙漠における沙漠緑化事業

中国・内モンゴル自治区アラシャン盟



事業概要

砂漠化を止め、酸性雨・黄砂飛来の発生源をなくし、沙漠地農牧民の生活の安定と向上をはかり、水源、防砂林、草地を増やすために、家畜放牧の農民と地球環境の持続的な関係構築のためにポプラほかを植樹する。コロナ禍で日本からのボランティアによる活動はできなかったが、地元の農牧民が作業にあたり収入につながり沙漠緑化の理解が深まった。

事業成果

コロナの状況をみながら少しずつ進め、9月～11月で植樹を実施し沙漠の緑化を実施する。

事業をよく知る関係者の声

- この地域では流動砂丘により耕作地はもとより住居さえも砂丘にのまれようとしている。流動砂丘を止めるグリーンベルトの植林を早急に進めていかなければならない。植林により流動砂丘を止めることができる事を実証し、地域住民との協働植林を強力に進めていきたい。(日本沙漠緑化実践協会相談役)

参加者の声

- コロナ禍により日本からのボランティアの参加はできなかったが、中国国内の方々の協力で緑化できた。



ポプラほかを植樹



給水車で水を運ぶ



活着率を高める



流動砂丘

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10ha

植付本数：5000本

樹種

ポプラ、スナナツメ

フィリピン・マウンテン州における森林農法による植樹と育苗事業

フィリピン・マウンテン州タジャン町



事業概要

ルソン島北部山岳地方のタジャン町において、水源涵養のための共有地2か所に在来種の植樹とアラビカコーヒーを主な換金樹種としたアグロフォレストリーによる植樹を実施した。またアグロフォレストリーとコーヒー栽培の講習会を開催したほか、2年間の事業の終わりに植栽地を専門家が訪問し個別に栽培指導を行った。さらにベンゲット州トゥブライ町に苗場を造成した。

事業成果

新型コロナウイルスの感染拡大で事業の実施は困難を極めたが、都市部に暮らしていた若者たちが感染を恐れて地方に戻り働き手が増えたこともあり、山奥の急峻な斜面での植樹作業も終えることができた。集会規制により講習会は一度しか開催できなかったが参加者のアグロフォレストリーとコーヒー栽培への関心は高く、今回のパイロットエ

リアであった5村以外から事業継続の要望が届いている。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林を農地にしてしまうと、降雨や台風などの影響で表土が流れてしまう可能性が高くなる。このようなことを未然に防ぐためにアグロフォレストリーによるコーヒー栽培が重要だといえる。本事業で植えたコーヒーの苗木は3年後には収穫を迎えるが、収穫した実をうまく高価値のコーヒー豆に加工し収入につなげることで、農家の意欲が高まり放牧地などの野菜栽培地への転換ではなくアグロフォレストリー農地への転換が進むのではないかと思う。(現地協力団体インターン)

参加者の声

- ・コーヒー事業に参加したのは、追加の収入を得られるだけでなく、この自然を後世に残せるからだ。(農家)



共有地での住民ボランティアによる植樹



教員とPTAがボランティアで植樹



専門家による個別指導



「アグロフォレストリーとコーヒー栽培」をテーマにした講習会

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1万7843本
苗木育成：8000本

参加者数

フィリピン：73人
計：73人

樹種

アラビカ・コーヒーブルボン種、カリン、アカギ、ハンノキ

ガラパゴス諸島：スカレシアの森再生事業

エクアドル・ガラパゴス州



事業概要

独自の生態系が失われつつあるガラパゴス諸島の高地において、「スカレシア」という固有の植物を中心に形成される森林生態系を再生し、本来の生物多様性と固有生態系を取り戻し、次世代に引き継ぐ。実施した活動は、①サンタクルス島、およびイサベラ島の2島の高地湿潤地帯において、劣化した土壌を整備して植林を行った。②サンタクルス島では、本来森林があった場所が現在農地に置き換わり、また観光業への転向から農耕放棄地が広がり農業の妨げにもなっていることから、農家と共に農地を整備し、農業を支援すると同時に農家と共に植林を実施した。③イサベラ島では植林した苗の食害があり防止シートを導入した。④両島において生育モニタリングを行った。

事業成果

新型コロナの影響で日本からの参加や居住区での植林は継続できなかったが、前回の終わりに農家との協働を試験

的に行ったことから、高地の農地において農家と植林をすることができた。特にコーヒー農家との協働は、コーヒーの実の質を上げるシェードツリーに森を作るスカレシアを使うことで、保全にも農業にも、また観光にも有益な植林となり、継続性が感じられた取り組みとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・何年にも渡る調査や研究があり、その結果を踏まえて今回植林が行われ、成果があがった。そして単に苗を植えるだけではなく、約1年間のモニタリング期間を設けて定着したことを確認して成果としている点で、コロナ禍でありながら先見的で科学的なプロジェクトと言って良いだろう。(植物生態学研究者)

参加者の声

- ・今回のこのプロジェクトは、農地の整備を一緒にやってくれて、しかもコーヒーに日陰を作る木を植えられる、お互いにとっても良いことが多い活動だと思う。(農家)



苗の運搬



島民ボランティアによる植樹



苗を守るシートを設置



植樹して8か月後

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8.85ha
植付本数：4150本

参加者数

エクアドル：132人
計：132人

樹種

スカレシア、マタサルノ、ブルセラ、ガラパゴスコーヒーノキ、ミコニアほか

ミャンマー・マインピン地域における水源涵養・アグロフォレストリー推進と緑化啓発事業

ミャンマー・シャン州マインピン地域



事業概要

マインピン地域における水源涵養・アグロフォレストリー推進と緑化啓発を目的に、以下の活動を行う。①水源周辺及びアグロフォレストリー（AF）デモファーム等に植林。8村の住民と緑化委員会が協力して植林。樹種は地域の自生種とした。②地域住民及び周辺集落代表者に対して緑化活動の啓発研修及びAF・循環型農業研修を実施。③継続的な緑化を進めるため育苗施設を整備した。

事業成果

事業実施地を中心として、広い地域で関心の高まりが見られた。また、現地はコロナとクーデターの影響で経済的に大きな打撃を受けている。そのような社会的背景もあり、AF農法に対する期待の高まりを感じた。事業終了後も委員会を中心に地域でAF農法を進めていこうという決意が聞

かれたことは大きな成果と言える。

事業をよく知る関係者の声

- ・AFの方法は、地域住民の収入向上と緑化の2方向から効果がある。本事業を終え、地域でも植林やAFに対する関心が高まってきているので、今後は自助努力で進めていくことができそうである。(地域林業省オフィサー)

参加者の声

- ・近年地域の水が少なくなったのは、木を伐採してきたことが原因と分かった。(研修参加者)
- ・村の共有林がなくなって久しいが、来年からは共有林を復活させたい。(村長)
- ・AF農法はゆくゆくは収入が入り緑も増える。私の畑にも自分で果樹やチークを植えた。(植林参加者)



地域の自生種や果樹を植樹



獣害防止柵の設置



防火帯づくり



循環型農業研修

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15ha
植付本数：5686本
下刈面積：8.2ha

参加者数

ミャンマー：87人
計：87人

樹種

モリンガ、チーク、アカシア、マンギウム、アボガド、レモンほか。

「つなげよう!どんぐりの森2020」プロジェクト事業

秋田県男鹿市



事業概要

地域の木・林・森・山を、その地域の人たちが中心となって育てていく。その活動を通じて、自然の大切さ、自然との共生、自然環境の素晴らしさに気づききっかけづくりとして「どんぐりの森づくり」を位置付け、持続可能な自然環境を将来につなげることをねらいとし、どんぐり観察会や自然体験活動「どんぐりがっこう」を開催した。

事業成果

これまでのどんぐり観察会の他に、新たな活動フィールドでの「どんぐりがっこう」を定期的で開催。どんぐりの森の自然の営みや生き物たちを観察しながら、どんぐりの生態系の役割や自然循環の仕組みを見て触れて感じる自然体

験活動を定期的に行き、持続可能な自然環境を将来に引き継いでいる。

事業をよく知る関係者の声

- ・季節とともに変化するどんぐりを観察しながら、自然の営みや、どんぐりの役割を知る大切な機会になっている。また「どんぐりがっこう」では、森の役割や山と海との繋がり、環境対策などを考えるきっかけとなる質の高い自然体験を提供できた。(自然体験及び動物ふれあい講師)

参加者の声

- ・自然観察や動物ふれあいをなど、普段の暮らしとは違う貴重な体験を親子で楽しんでいる。(保護者)



大きく育つよう、ていねいに植樹



苗の成長を見守る



葉っぱにはいろんな形がある



遊びながら学ぶ「どんぐりがっこう」

実績とりまとめ

作業内容

- 植付面積：0.25ha
- 植付本数：100本
- 下刈面積：0.53ha
- どんぐり観察会：1回
- どんぐりがっこう：13回
- どんぐり植樹会：1回

参加者数

- 県内：219人
- 計：219人

樹種

カシワ

子どもがつなぐ未来の森とSDGs

東京都檜原村



事業概要

子どもたちが薪炭林の手入れを通じて出た幹や枝などを薪や焚き付にし、炭焼き用の材を育て、森が活性化し資源を無駄なく循環する「森のサイクル」を体験すること。主な活動は以下のとおり。①SDGsワークショップを開催し、森の循環を学び、柴刈りした枝で鉛筆づくり、②柴刈りをしてクラフトづくり、③炭材の伐り出し、④歩道整備で出た枝を使ったシガラ柵（そだ柵）づくり、⑤炭焼き。

事業成果

薪炭林（落葉広葉樹林）の手入れを初めて行うことができた。木を伐って使うこと、残した木が育っていくこと。そして薪炭用に木を伐ったら切株から萌芽更新して、林が再生する。この流れを通して、子ども達と親世代に、持続可能な森林環境（植える・育てる・使う）について理解してもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

・枝を身近に使えるものにできないかと、中高生が考えて、森の鉛筆づくりが始まった。未就学児から中高生まで山に入り、柴刈りをし、使える枝を探して、持ち帰り、芯を入れて、ナイフで削る、そして鉛筆を大事に使う。このような一連の作業から森を知ることになり有意義な体験でした。（中学校教員）

参加者の声

- ・娘は、山を登って選んだお気に入りの枝でつくった鉛筆は、愛着がわいて大事にしようという気持ちが強くなったようだ。（40代女性）
- ・広葉樹は、伐っても芽が出て育つことを知り、驚いた。（40代女性）
- ・エンピツの形にナイフでけずるのが楽しかった。（11歳女子）



柴刈り



枝で鉛筆づくり



炭材の伐り出し



炭材をノコギリで切る

実績とりまとめ

作業内容

ワークショップ：1回
柴刈り：0.1ha
道の整備：150m
炭焼き：2回

参加者数

都内：177人
計：177人

持続可能な森林管理を生徒児童と学ぶ

神奈川県二宮町



事業概要

当法人の前身は子ども食堂につながる「子ども農園」が発端であった。法人化後、谷戸の棚田を再生するにあたり、2本の沢を回復するため山林に入り崩落と倒木だらけのタケの繁茂する劣化に驚き、山林整備に着手せざるを得ない状況となった。専門家との協働は必然であり、すべては子どもたちのための成育環境として健全な山を残すことで連帯した。さらにプロセスも持続可能な整備のために、子どもから大人までの住民参画で啓発・実践することとした。

事業成果

林業専門家と持続可能な協働関係を持てたことで秩序と安全管理を合理的に保て、若者たちの地域の里山整備の参画への後押しとなった。地域の子どもたちが入れる森づくりにミッションを持つ林業専門家、子育て世代のチームと若者世代、法人会員である棚田再生や原木栽培に係るチームとの循環する協働が進んだ。また子ども、保護者世代と協働するワークショップの会場として地域の山林や谷戸を

提供できた。町はタケチップper購入を決め、竹林整備後の資源化の新たな研究グループが発足、二宮町生活環境課との協働がさらに推進される。また町のHPに山林のページをつくり所有者への啓発、コミュニケーションを推進しつつある。現在当法人は複数の地主の信頼を得て新たに3か所の山林整備現場を持つこととなった。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちを真ん中に海、谷、川、山とマイクロコスモスのようなこの二宮町が自然と人との関わりにおいて先進的な何かを打ち出せる予感がする。一過性のものとならないよう持続的な仕組みづくりが肝要だ。(教育委員)

参加者の声

- 普段は入れない山や、谷戸にしっかりと向き合い関わった体験はかけがえがない。子どもたちには里山で存分に遊んでほしい。子どもたちの生きる力のもととなる自然の中での活動を持続的に発展させてほしい。学校教育にも取り入れてもらいたい。(ワークショップ参加者)



沢の枯れたところを移植ゴテで再生



ドングリから育苗(ドングリプロジェクト)



タケを使って「山のさんぽ道づくり」



谷戸の再生

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：30本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：0.9ha
間伐面積：0.05ha

参加者数

県内：2100人
県外：80人
計：2180人

地域の多世代交流拠点を目指す園庭緑化事業

神奈川県横浜市



事業概要

幼児教育機関「こども園」の園庭の緑化を進め、日々の生活を通して豊かな自然に親しむ事ができるようにする。主な活動は、①高木樹の植栽と保護デッキ製作、②園舎接道部の植栽、③園庭の植栽、④緑化をすすめていく意義を保護者と共有、⑤保護者と「遊びから始まる子どもの育ち」への理解と共有。

事業成果

保護者だけでなく、教員も講演を聴くことで緑化された中で遊ぶ子どもの育ちについての理解が深まり、今後の活動へつなげていく良い機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・町内会との合同活動として「植栽イベント」が企画されたが、コロナを心配し、参加者が少なかったのが残念だった。こども園のフェンスにツル類が植えられた事で風景に潤いが出た。

参加者の声

- ・緑豊かになって良かった。(保護者)
- ・様々な草花を植栽する作業って楽しいですね。(保護者)
- ・遊びを通して子どもはたくさん学ぶ、その環境を用意したいと思った。(保護者)



園庭緑化に向けた植栽基盤の造成工事



フェンス緑化



落葉高木の植樹



園庭の植栽

実績とりまとめ

作業内容

講演会：1回

植栽作業の指導：3回

参加者数

県内：255人

計：255人

樹種

ブラックベリー、バラほか

広葉樹林の多様な活用事業

山梨県山梨市



事業概要

50年手つかずだったコナラ林を12年サイクルを戻すために、まずはシイタケ原木を伐採し搬出した。そして、整備した場所は、子どもたちが日常的に通える山の遊び場として提供できるイベントを企画した。

事業成果

継続したタケエリアの整備とコナラ伐倒時の安全作業を学んだ。シイタケ原木へのコマ打ちも実施。地域の親子の参加があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・整備されていない場所だったので、どこから木を伐採して良いのかなど慎重に取りかからないと掛かり木になることを実感した。今後も慎重に実施したい。

参加者の声

- ・どこに倒すかなどでいねいな指導があった。(活動参加者)
- ・伐採した木でシイタケがつくれることを知った。(子ども)
- ・落ち葉でソリすべりでき、身近にあるもので遊べて楽しかった。(子ども)



作業前の道具点検



林内整備



伐採した広葉樹はシイタケ原木に



作業後の森遊びイベント

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
間伐面積：0.1ha
落葉活用イベント

参加者数

県内：41人
県外：63人
計：104人

元気な子も！療育の子もみんなで遊ぶ森作り

熊本県高森町



事業概要

増加傾向にある未整備の森林を整備し、子ども達が安心して自然と触れ合い遊べる環境を維持するとともに、森における自然体験を通して子ども達の生きる力や発想力を育む。今回は当法人事業のフィールドである森の下刈と間伐、間伐材を利用した子ども達の遊び場(デッキ)づくり、子どもの自然体験教室として火起こし、水の濾過、ナイフの使い方などを体験した。

事業成果

草刈りにより子ども達が安心して遊べるようになり、デッキができたことで森の中での遊びの幅が広がった。子ども達は火起こしがうまくいかなくても火が付くまで挑戦し、

やりたい気持ちを大切に諦めないことが次への一歩になることを学んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・森の中に遊び場ができたことで、森の中での遊びに慣れていない子もとつきやすくなり、食事や室内遊びの延長のようなこともしやすくなりそうだ。

参加者の声

- ・スタッフや講師の皆さんの子ども達への接し方がすばらしく、親子ともども笑顔で帰れました。(保護者)
- ・子どもが前回よりもできるようになったことが増え、成長が見られて良かった。(保護者)



自然体験教室



火起こし実演



ナイフ体験



下刈作業後(フィールドの森林)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.37ha
 間伐面積：0.09ha
 デッキづくり
 子ども体験教室：2日

参加者数

県内：22人
 計：22人